



季節のエッセー
いわての野草
文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ミヤマツチトリモチ」
(ツチトリモチ科)

れつきとした植物である。
しかし、七時雨山のブナ林の下で、
ミヤマトリモチがいくつも顔を
のぞかせているのに初めて出会ったとき、
とっさに私の頭に浮かんだのは、
宮沢賢治の童話『どんぐりと山猫』の中の
次のような一節である。
「一本のぶなの木の下に、たくさんの
白いきのこが、どつてこどつてこと、
変な楽隊をやっています」
キノコと見まごうばかりの姿をした
ミヤマトリモチには、
「ツチトリモチ」という表現が、
いかにも似つかわしく感じられた。
ツチトリモチとは、
根をすりつぶしてトリモチを作ったことから
ついた名前。
キノコの傘のように見える部分の、
小さな粒々の下に、花が隠れているという。
葉緑素を持たず、樹木に寄生している。

参考資料：澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社 平成18年4月20日 第7版発行)より

純情産地発 **KLARA** vol.835 2019

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

特集 食の安全・安心確保に向けた
分析について

資材部(営農技術課)



contents

季節のエッセー いわての野草	02	報告! 出向く活動班	08
特集 食の安全・安心確保に向けた分析について	03	純情むすめ活動記	09
純情産地いわて30周年記念企画	06	純情人	09
みんなの分教場	07	ニュースワイドアングル	10

この1年で導入した新器械



残留農薬分析機器①



麦赤かび毒分析機器



残留農薬分析機器②



麦・大豆成分・粗飼料分析機器



麦粘度測定装置



土壌分析機器

1. はじめに

本会では、「純情産地いわて」ブランドの維持向上を図るため、食の安全・安心確保に向けた科学的な分析を実施しています。その種類は、「農産物の安全性を確認するためのもの」「農産物の品質を確認するためのもの」「その他農畜産物生産に関するもの」があります。

今回は、その中から残留農薬分析についてご紹介いたします。

	年間分析数	
農産物の安全性を確認する分析	残留農薬分析	800
	麦赤かび毒分析	200
	放射性物質測定	700
農産物の品質を確認する分析	米食味分析	500
	麦・大豆成分分析	250
	米DNA検査	400
農畜産物の生産に関する分析	粗飼料分析	100
	土壌診断	4000

2. 残留農薬分析

本会の残留農薬分析は安全な農産物供給のため、全国のJAグループに先駆けて、平成5年より開始しました。食品衛生法改正によるポジティブリスト移行を受けて、平成15年から農薬成分を一斉に分析する方法を導入し、平成30年4月には機器を2台更新して分析体制の強化を図っています。

(1) 平成30年度の分析農薬成分数

分析する農薬成分数は、効率的に県産農産物の安全性を確認するため、県内の農薬流通実態を踏まえ、202農薬成分となっております。分析する農薬成分は毎年見直しを行い、県内に流通する農薬の7割程度をカバーするよう努めています。

(2) 本会の残留農薬分析の特徴

本会の残留農薬分析では、分析する農産物の防除記録を提出していただきます。提出いただいた防除記録の記載内容と分析結果の突き合わせ、農薬の使用方法の確認を行います。

これは、検出された農薬成分が、使用した農薬に起因したものであるかを判断するために実施しています。また、生産者が正確に農薬を使用し、使用した内容を防除記録に正しく記載しているのかも確認しています。

このような取り組みは、全国のJAグループの分析機関においてもほとんど実施例がありません。不測の事態が発生した場合の速やかな原因

究明や、残留農薬分析結果を効率良く生産現場にフィードバックするための、岩手独自の検査体制と自負しています。さらには、年間を通じた検出傾向や注意事項を共有するための研修会を開催し、関係者における農薬適正使用の意識向上に取り組みんでいます。

(3) 農薬の適正使用

残留農薬分析は農産物の安全性を証明することが目的ですが、農産物の安全性を確保するためには、生産者が農薬を正しく使用することが大前提になります。

農薬を正しく使用する上で最も重要なことは、農薬をラベル記載どおりに使用することです。記載どおりに使用することで農薬の効果を十分発揮させることができ（経済性向上）、残留農薬基準値超過を防止することができます（安全性確保）。

また、農薬を使用する際には、近隣作物へのドリフト対策や防除に使用した器具の十分な洗浄等について注意することも農薬適正使用の重要なポイントとなります。

3. おわりに

本会では、より速く正確な分析を実現するため、分析法の改良や高性能な分析機器の導入など体制面での強化を続けるとともに、専門性を有した職員の育成にも努めてまいります。そして、長い時間をかけて確立されてきた「純情産地いわて」のブランドを維持するため、今後も科学的な視点から生産者をサポートしてまいります。

平成30年産米の検査概況 (11月30日現在)について



米穀部
米穀販売課
菊池 満

表-1 30年産米作況及び過去3か年作況(H27~H29)

	全国	東北	岩手	青森	秋田	宮城	山形	福島	北海道	北陸	関東	近畿	九州
30年	98	99	101	101	96	101	96	101	90	98	100	98	102
29年	100	99	98	101	99	99	100	100	103	98	99	100	101
28年	103	103	102	104	104	105	103	102	102	107	101	102	101
27年	100	103	105	105	103	103	103	101	104	99	98	100	96

(農林水産省公表資料)

表-2 30年産水稲うるち玄米の等級比率(11月末日現在)

地域別	等級比率(%)			
	1等	2等	3等	規格外
全国	81.2	15.8	1.8	1.2
東北	95.1	3.9	0.3	0.7
全国1位・岩手	98.0	1.7	0.1	0.1
全国2位・長野	97.0	2.7	0.2	0.0
全国2位・青森	97.0	2.6	0.1	0.2

(農林水産省公表資料)

表-3 30年産米銘柄別1等比率(岩手県全体11月末日現在)

種類	銘柄	30年産米1等比率	29年産米1等比率	28年産米1等比率
水稲うるち玄米	ひとめぼれ	97.9%	92.5%	97.7%
	あきたこまち	98.9%	94.4%	98.5%
	いわてっこ	98.1%	90.0%	94.9%
	金色の風	99.9%	97.1%	—
	銀河のしずく	99.4%	98.0%	99.9%

(農林水産省公表資料)

おむね好天に恵まれたことから、被害粒や未熟粒の発生が少なく、登熟が進んだ一部の地域では、高温障害の影響からシラタ

平成30年は7月までの高温傾向、8月は極端な高温と低温の繰り返し、9月以降は台風や長雨という気象条件での水稲栽培となりました。平成31年ものような気象経過をたどるのか予想できませんが、平成30年産の栽培管理を振り返りながら、基本技術をしっかりと励行し、品質の良い「安全・安心」な岩手純情米づくりを進めていただきたいと思います。

消費者の皆様の食品に対する関心は、ますます高まっておりますが、お米を取巻く環境は毎年厳しさを増しています。各JA登録検査機関及び岩手県JA農産物検査協議会では、これまで築き上げてきた「純情産地」に対する信頼をさらに向上させていくため、今後とも適正かつ公平な農産物検査を推進してまいります。

以上で平成30年産米検査の報告とします。

農林水産省は、12月10日(月)に平成30年産水稲の収穫量を公表しました。全国の主食用作付面積1386万ha、10ha当たりの収量529kg(170mmふるい幅ペー

「やや不良」の見込みであることを発表しました。北海道の6月中旬以降の低温日照不足の影響により、予想収穫量が平年より減少したことが原因で作況指数が「90「不良」を示されました。また、その他の地域では田植期以降、おむね天候に恵まれたことから生育が順調だったものの、9月中旬以降の日照不足の影響により登熟が抑制された一部地域では、作況指数が「98」「95」「やや不良」となりました。東北では、太平洋側が作況指数「101「平年並み」、日本海側が作況指数「96」「やや不良」と見込まれ、岩手県も作況指数「101「平年並み」の見込みとなっています。(表1参照)

ここで平成30年産米の農産物検査について報告します。

農産物検査の概況(平成30年11月30日現在)ですが、全国の水稲うるち玄米は378万トンが検査され、1等比率が81.2%と前

年同期の82%より16ポイント低いものとなっています。

2等以下に格付けされた主な理由は、心白腹白が29%(前年25%)、整粒不足が23%(前年19%)と前年より高く、充実度26%(前年24%)、着色粒14%(前年25%)に関しては前年より低いものであったからです。

一方、岩手県内の農産物検査概況では、30年産米の初検査は、水稲もち玄米は29年産より4日遅い9月11日、水稲うるち玄米は昨年より6日早い9月18日となりました。

検査概況(平成30年11月30日現在)では、県内の水稲うるち玄米は134万トンが検査され、1等比率が98.0%と前年同期の92%より51ポイント高いものとなっています。

また、2等以下に格付けされたものは全体のわずか20%で、主な格付け理由は、着色粒が83%、充実度不足18%、形質(心白、腹白、その他)13%となっています。(表2表3参照)

品質については、各地域とも適期内に田植え作業が行われ、移植後も全般的に気温が高く、良好な気象条件で経過しました。しかし、6月中旬の気温・日照不足、8月の一部低温により登熟の進み具合が地域により差が生じ、また、収穫時期の長雨や台風等の影響を受け刈取作業が思うように進みませんでした。

(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が散見されましたが、品質への影響は少ないものとなっています。

品種別では、各品種とも被害粒や未熟粒の発生が少なく、特に青未熟粒の混入が極端に少ないものとなっています。

また、生産段階における調製技術(特に色彩選別機・石抜装置等の導入)の向上により、総合的にいずれの品種も粒ぞろいや千粒重が確保され、被害粒や未熟粒の混入が少なく、品質は良好なものとなっています。

平成30年は7月までの高温傾向、8月は極端な高温と低温の繰り返し、9月以降は台風や長雨という気象条件での水稲栽培となりました。平成31年ものような気象経過をたどるのか予想できませんが、平成30年産の栽培管理を振り返りながら、基本技術をしっかりと励行し、品質の良い「安全・安心」な岩手純情米づくりを進めていただきたいと思います。

消費者の皆様の食品に対する関心は、ますます高まっておりますが、お米を取巻く環境は毎年厳しさを増しています。各JA登録検査機関及び岩手県JA農産物検査協議会では、これまで築き上げてきた「純情産地」に対する信頼をさらに向上させていくため、今後とも適正かつ公平な農産物検査を推進してまいります。

以上で平成30年産米検査の報告とします。

純情産地いわて30周年記念企画



インタビュー Interview

- ①現在の仕事内容・仕事で大切にしていること
- ②「純情産地いわて30周年」を通して、消費者・生産者に伝えたいこと
- ③これからの目標

① J A S S の運営に関する業務に携わっています。日々の生活や農作業に欠かすことのできない燃料を、安心できる品質で安定供給すること、を第一に考えて日々の業務に取り組んでいます。また、地域のライフラインであるガソリンスタンドの健全な経営のサポート、ご利用いただく皆様へ魅力を感じてもらいたい、「また来たい!」と思っていただけるような店舗づくりを提案できるように努めています。

② 生産者・消費者の皆様、「純情産地いわて」ブランドをこれまでご愛顧頂き有難うございます。石油事業を通じて、「純情産地いわて」という魅力あるブランドを更に発展できるように努めてまいります。

③ ご利用いただくお客様はもちろん、現場で働くスタッフの皆さんにも魅力を感じてもらえるような、今まで誰も考えたことのないような J A S S をこれから作り上げていきたいと思っています。



燃料部 北東北石油事業所
岩本 雄州

① 主に和牛の登録・移動の事務や、今年度からは地方審査委員として登録審査の実務も行っていきます。全国和牛登録協会の事務本拠地に「信用は登録の生命なり」という言葉があり、自分の業務を行う上で、まず誰からも信用される仕事をしなければならぬと考えています。また、人間としても生産者や農協担当者へ信用していただけるように努めています。

② 「純情産地いわて」は、私が小さい頃から生産者と先輩方が一生懸命に築き上げてきたものだと思っています。今後も生産者と共に、純な自然の力と人々の情がよみあう純情な農畜産物の美味しさを、安心・安全と共に消費者のもとへお届けできたらと思います。

③ 職場の先輩方や、生産者、農協担当者の方々からいろいろな教わりながら仕事をしています。まだまだ自分の未熟さを実感することが多いです。これからは、和牛を通じて仕事をしていく中で、一段一段スキルアップしていき、生産者の皆様や農協の方々との「和」を大切にしながら、少しずつ頼られる存在になっていきたいと思っています。



畜産酪農部 和牛登録室
菊池 和馬

① 米の精算に係る業務を行っています。農協への概算金買取米代金の支出、収支管理、販売完了後の精算金の支出を主な業務としています。生産者の方々のお金をお預かりしている立場ですので、責任を感じながら適切な運用を行い、生産者手取りが1円でも高くなることを意識して仕事をしています。

② 平成25〜28年度の4年間、岩手県本部の大阪駐在として業務をしました。その中で、岩手の農産物が食味等の品質面で米卸・青果市場・実需者の方々から非常に高い評価を得ていること、それは生産者の皆様が努力して栽培管理された成果であること、それを強く感じました。本会として「純情ブランド」が消費地まで更に浸透するよう、尽力しなければならぬと思います。

③ 現在の業務内容からの目線になりませんが、米の制度や流通方法が年々多様化し、業務が増えている。一方、本会を含めJAの職員数は減少しています。本会とJA間の業務やシステムの仕組みを可能な限り変えていき、業務効率化となるように整備したいと考えています。



米穀部 米穀販売課
藤原 靖史

① 畜産統括課では、岩手県内における畜産生産基盤の維持・拡充ならびに肉豚の有利販売に向けた業務を行っています。牛では、和牛の受胎卵移植により乳用牛から生まれた子牛を「いわて牛」肥育農家に供給する事業を、豚では、農場巡回や県内外に向けた「いわて純情豚」の販売促進を行っております。動物の命に携わる部門であるため、迅速に対応することを第一として心がけています。

② 私が生まれた年に「純情産地いわて」が誕生したということで、運命的なものを感じています。こうして「純情産地いわて」が30周年を迎えられたのも生産者のひたむきな想いがあったからこそだと思います。その想いによって生産された岩手が誇る農畜産物を全国に発信し、40、50周年と皆様と迎えられるよう一丸となって今後も取り組んでまいります。

③ 本会に入会してから畜産部門に携わり、今年度で7年目となります。経験・知識ともに乏しい若輩者ですが、生産者の皆様の力に少しでもなれるよう成長していきたいと思っています。また、畜産部門に限らず他部門の方々とも繋がりを深め、これからも岩手の農業が末永く続くよう尽力してまいります。



畜産酪農部 畜産統括課
戸田 優

報告!



出向活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
亀井 拓也

平成29年度「農業農村整備優良地区」コンクール中山間地域等振興部門において、最高位である「農林水産大臣賞」を受賞した「農事組合法人門崎ファーム」の取り組み内容をご紹介します。

1. 沿革

平成16年	門崎地域基盤整備事業の着工 (7工区に分けて施工)
平成19年12月	門崎地区農地管理組合設立 (仮換地に関する調整事務等)
平成25年	基盤整備事業の竣工 (受益面積 642 畝 受益戸数 232 戸)
平成25年4月	農事組合法人門崎ファーム設立
平成26年10月	「門崎めだか米 門崎ホタル米」の販売開始
平成30年3月26日	「農林水産大臣賞受賞」
平成30年6月	「めだか米・ホタル米」商標登録



水生生物観察会の様子

2. 役員・構成員

役員：12名 事務局長：3名 構成員：189名

3. 生産物および作付面積・生産量

生産物	経営面積 (全51.0ha)	品種	生産量
水稻	主食うるち	ひとめぼれ (門崎ホタル米10.7ha、門崎めだか米9.8ha)	3290袋
	主食もち	こがねもち	67袋
	酒米	吟ぎんが	52袋
飼料用米	14.4ha	つぶゆたか	
WCS	15.2ha	つぶゆたか(12.5ha)、ひとめぼれ(2.7ha)	

4. 門崎地区における環境保全型工法を取り入れた基盤整備事業

この基盤整備事業では、地域に昔から息する絶滅危惧種のメダカを保護するために、岩手大学 関係機関及び地域の方々の協力を得ました。絶滅危惧種となった原因の一つでもあると言われている従来の方法を

改め、「四つの仕組み」を考案し施行していただきました。メダカが生息する田んぼ(以下、メダカ田んぼ)の周りに土水路を設け、土水路の最上部には池を、更にメダカが土水路と田んぼを自由に往来できる往来工や魚道を設け、メダカを保護できる環境を整えました。

5. 農業農村整備優良地区コンクール中山間地域等振興部門農林水産大臣賞受賞

このコンクールは、全国土地改良事業団体連合会が主催する農業農村整備事業を契機として、豊かで競争力のある農業や、美しく活力ある農村の実現に取組んでいる地区を対象に優良地区コンクールを実施し、今後の農業・農村地域の発展と振興に資することを目的としています。



お田植え会の様子



門崎ファームは、「食と共に環境を守る」を基本理念として、メダカやホタルの棲む豊かな環境を保全すると共に、次世代へ継承し、農業の担い手育成を目指す」という経営理念のもと、地域振興および都市との交流への取り組みが高く評価され、このコンクールにおいて最高位である農林水産大臣賞を受賞しました。評価された内容として、次の5点が挙げられます。

- ①「食と共に環境を守る」を基本理念として、環境保全を最優先に意識し、環境保全型農業に取り組んでいること。
- ②単に米を作るだけでなく、環境(メダカ)を守りながら営農に取り組んでいること。
- ③農地その他地域資源の維持管理体制として、行政・土地改良区・及び門崎ファームとの間でアドバトプログラム協定を締結して取り組んでいること。
- ④幼稚園・小学生を対象とした水性生物の観察会を開催し、自然との触れ合いを通して環境保全活動の重要性について指導していること。
- ⑤「門崎」という地名・「門崎ファーム」をより認知してもらう目的で、首都圏に住む人々を交えてのイベント(お田植え会・生物観察会・収穫祭等)を開催し、都市との交流・拡大にも取り組んでいること。

6. 今後のプラン

メダカ田んぼで生産されたお米を「門崎めだか米

7. 現状の問題・課題等

- 課題として、次の3点が挙げられています。
- ①オペレーターと担い手の確保について、地元農産会社との水稲と園芸技術の交流をおとして、水稲栽培に興味・関心をもった若手担い手の発掘に努めること。
 - ②複合経営を目指すために、ハウスを活用しての園芸作物の栽培に取り組むこと。
 - ③「門崎めだか米」を活用しての6次化に取り組むこと。
- これらの課題がある中で門崎ファームでは、更なる所得向上と生産力向上のため、販売情報(売り先・売れ筋)及び技術指導(省力化・効率化)に注力してほしいとの要望があります。
- 以上の要望に対してJAグループが営農とTAC活動を通じ、販売情報の提供・土壤診断等の支援 新技術に関する情報提供を行い、今後の活動に寄与してまいります。

笑顔がはじける

純情むすめ 活動記

「冬恋はるか促進フェア」に参加して



純情むすめとして活動している中で、販売促進活動は消費者と直接接するため、一回一回の業務を大事にして活動してきました。今までの活動を振り返り、どうすれば農畜産物に興味を持ってもらえるか、足を止めてくれるか、購入してくれるかなどを考えながら活動しました。やはり、実際に食べてもらって、美味しさを伝えることが一番であると感じました。販売促進活動は、試食提供を行う機会が多く消費者とコミュニケーションをとりながら活動するため、PRするやりがいを感じます。

12月9日に川徳菜園店で「冬恋はるか販売促進フェア」を行いました。岩手県のオリジナルブランドである「冬恋」・「純情はるか」は蜜入り・糖度・外観で差別化しており、基準を上回った上位等級品を「冬恋」とし、ブランド化を図っています。その基準をクリアするため、生産者と各関係機関が一体となり、りんご一つ一つに愛情を込めて生産しています。この日は日曜日ということもあり、家族連れのお客様が多く、いつしかいきました。大人から子供まで、幅広い年齢の方に冬恋はるか試食提供をすることが出来ました。また、冬恋はるか認知度を上げるために、試食会場では冬恋はるかPR映像を流しました。



2018いわて純情むすめ 星 菜々

お客様から「へえ、はるかは黄色いよね!」「蜜がたくさんで甘い!」「贈り物にいいね!」と言っていただけでした。生産者の方は、「まずは食べていただくことが大切ですよ」とおっしゃっていました。今回の活動を通して、冬恋はるか認知度が上がってほしいなと思います。生産者の想いが詰まった冬恋はるか岩手県はもろろん、全国の消費者に食べていただきたいです。

JA全農いわての純情人

じゅん しゅう びと

趣味・特技
特技は増量です。昨年から通算で16kgの増量に成功した実績があり、同期1の愛されボディとしてこれからもがんばります! 趣味は、サッカー(右足 ボランチ)です。シャビ・アロンソのような広い視野と攻守のバランスをとれる選手になりたいです!

現在の担当業務
段ボール資材・包装資材等の受発注や実績の取りまとめ、価格設定、各資材情勢の取りまとめ等を行っています。

これからどんな職員になってみたいか
あらゆる業務に対応できるようになり、最終的には全農いわての緑の下の力持ちになりたいと思います。そのために、全農の仕組みや全農を取り巻く環境について理解を深めたいと思います。

その他アピール
好きな事:「ごはん&ごはん」位ごはんを食べること。「引いて」と言われたら引き、「放せ」と言われたら放すこと
好きな色:赤色・金色・虹色(右から順に好きです)
最近の悩み:意識していないのに「ゴマスリ」と言われること。持久走で7分しか走れないこと。写真を撮ると顔がパンパンな事

趣味・特技
趣味:舞浜のテーマパークに行くこと。パレードでの推しの姿を収めるために最近カメラを始めました。
特技:大学で少林寺拳法をやっていました(好きな技は半月蹴)。

現在の担当業務
土壤診断の連絡・調整、各種講習会の案内・取りまとめなど。農家手取り最大化プロジェクトで農家の所得増大の取組みにも関わっています。

これからどんな職員になってみたいか
まだまだ勉強しなければならないことばかりですが、いつか、豊富な知識と経験で生産者の疑問・要望に迅速に対応できる職員になりたいです。

その他アピール
生まれは岩手ではありませんが、岩手の人の人柄の良さ、雄大な自然、そして何より岩手の美味しい農産物に出会って、岩手が大好きになりました。これからも岩手の魅力をたくさん発見していきたいです! よろしくお祈りします!

園芸部 花き・資材課
くしあおい
久慈 葵さん

資材部 山本 優乃さん
やまもと ゆうの
営農技術課

◇もぐもぐタイム、で選手を応援!カーリング選手権大会

平成31年1月5日(土)～6日(日)

第12回 JA全農いわて 純情産地いわて杯 岩手県ミックスダブルスカーリング選手権大会

JA全農いわてが特別協賛した「第12回 JA全農いわて 純情産地いわて杯 岩手県ミックスダブルスカーリング選手権大会」が、盛岡市で行われました。JA全農では、2010年からカーリング女子日本代表オフィシャルスポンサーとして、各主要大会をサポートしていることから、岩手県においても今大会より特別協賛させていただくことになりました。

このミックスダブルスは男女ペアでチーム構成され、今大会には13チームが参加しました。本会は入賞チームや参加者へ「純情産地いわて」の商品を提供。決勝ハーフタイム時には、通称「もぐもぐタイム」として岩手県産りんごを選手に食べてもらい、ゲームメイクへ向けてパワーをつけていただきました。

開会の挨拶では本会の高橋司副本部長が、「東北大会、全国大会へと勝ち進み、ぜひ、純情産地いわての農畜産物の美味しさを発信してほしい」と選手を激励しました。

長時間に亘る熱戦の結果、山田菜未さん(JAいわて中央)・村上夕輝さんペアの「ブラック・ストロベリー」チームが優勝。賞状・優勝杯・JA全農いわて盾・岩手県産米ギフトセットが贈呈されました。また、上位3チームには、1月19日(土)～20日(日)に青森県で開催される「第12回東北ミックスダブルスカーリング選手権大会」への出場資格が与えられました。

本会は今後も「食」を通じて、世界へ羽ばたく選手たちを応援し、カーリングを始めとしたスポーツ選手をサポートしてまいります。



開会式で選手を激励する高橋副本部長



技術と頭脳を駆使した緻密な試合展開を見せました

◇美味しい、をパワーへ! ミニバス大会

平成31年1月12日(土)～1月14日(月)

第42回 JA全農いわて いわて純情米選手権 岩手県ミニバスケットボール交歓大会

JA全農いわてが特別協賛する「第42回 JA全農いわて いわて純情米選手権 岩手県ミニバスケットボール交歓大会」が、宮古市にて3日間にわたり開催されました。男子の部・女子の部でそれぞれ32チームが参加し、優勝を目指して白熱した試合展開を見せました。

この大会に参加した選手たちには、岩手県産米「ひとめぼれ」を使用したおにぎり・岩手県産もち米「特別栽培米ヒメノモチ」を使用した切り餅・いわての牛乳を提供。「食」を通して選手たちを応援しました。また、沿岸地区から出場したチームには、東日本大震災からの1日でも早い復興を祈念し、バスケットボールを渡しました。

激闘の末、男子の部では「矢巾ミニバスケットボールスポーツ少年団」、女子の部では「一関ミニバススポーツ少年団」が優勝。1位～3位のチームには、副賞として本会より「ひとめぼれ」合計280kgを贈呈しました。優勝した2チームは、3月28日(木)～30日(土)に群馬県で開催される「第50回全国ミニバスケットボール大会」へ出場します。

◆男子

優勝	矢巾(盛岡市)
準優勝	山目(一関市)
3位	水沢みなみ(奥州市)
	津志田ブルーウインズ(盛岡市)

◆女子

優勝	一関(一関市)
準優勝	南城(花巻市)
3位	若葉(花巻市)
	山目(一関市)



決勝の様子



盛岡の冬は2月頃が一番寒いよ、という声をよく耳にします。福島の子供出身である私にとって恐怖の言葉です。先月は暖房機器の使い過ぎで電気代がとんでもないことになってしま

ました。初めての岩手の冬、りんごやお米、お肉を食べて楽しく乗り切りたいです。

(井戸川)

家畜市場の活況を願って

平成31年1月9日(水)～10日(木)、16日(水)～18日(金)

県南・中央家畜市場 初市式

1月9日(水)～10日(木)にJA全農いわて県南家畜市場(奥州市江刺)にて、16日(水)～18日(金)には中央家畜市場(岩手郡雫石町)にて、和牛子牛の初競りが行われました。

各日、競りに先立ち、購買者・上場生産者と上場JA役員、県行政、関係市町村首長臨席のもと初市式が執り行われました。本会島山俊彰本部長は、「行政と一体になって拡充を図り、購買者と販売者が安心して利用できる市場になるよう努めていきたい」と挨拶。鏡開きで新年の幕開けを祝福した後に、消費拡大の願いを込めて牛乳での乾杯と餅まきを行い、今年1年の家畜市場の活況を願いました。

今回の一頭あたりの総平均価格は、767千円となりました。



初競りの様子

初!6次産業化アワード

平成31年1月17日(木)

JAいわてグループ 6次産業化アワード 表彰式

1月17日(木)にJAいわてグループ6次産業化促進対策連絡会主催の「JAいわてグループ 6次産業化アワード 表彰式」が行われました。今回が初の開催となる6次産業化アワードは、県内の6次産業化に取り組む生産者に対し、6次産業化商品の開発・生産及び販路開拓・販売促進の支援のほか、本県農畜産物のPRと消費拡大を目的に実施されました。

県内各地からの応募総数は33点。昨年11月の一次審査にて16点を選考し、12月の二次審査にて入賞作品7点が決定しました。味・食感・デザイン・素材の特製を活かしているか、ストーリー性があるか等を流通の専門家が審査しました。

大賞はひころいちファーム(村上一憲代表)の「米粉パスタスナック」が受賞。表彰式ではJA岩手県五連の小澤隆一副会長から賞状が手渡されました。

入賞した商品は次の通りです。



小澤副会長(前列右)と「JAいわてグループ 6次産業化アワード」受賞者ら

平成30年度JAいわてグループ6次産業化アワード審査結果

1. 応募状況及び一次審査結果

項目	農産加工品	調味料	種類	飲料	菓子	合計
応募点数	8	11	5	1	8	33
一次審査通過	3	4	3	1	5	16

2. 二次審査結果

表彰内容	品名	分類	応募者	J A 名
大賞	米粉パスタスナック	菓子	ひころいちファーム	おおふなと
優秀賞	美一ツドレッシング	調味料	Vege fru/ハーモニー代表 渡邊淳子	いわて平泉
	ミニトマトジュース	飲料	キートスファーム 株式会社	いわて中央
優良賞	とまと味噌鍋の素	農産加工品	農事組合法人 上小田代	江刺
	長ねぎ醤油ドレッシング	調味料	漬物処きら里 小野寺郁子	いわて平泉
	大麦入りどん菓子ズドン	菓子	合同会社HUB	おおふなと
特別賞	玉山ナンテコッタ	菓子	いわてたまやスイーツ himekashi	新いわて



JAの産直でJAカードをご利用いただくと

いつでも

5%OFF

JAカードでおトク!

農産物直売所

① JA新いわて直売所 花牛米菜 (かうべな)
所在地：聖石町高前田 152-3



② ふれあい産直ショップ 花野果 (はなやか)
所在地：久慈市中央 1-56

③ 母ちゃんハウスだあすこ
所在地：花巻市野田 335-2

④ サン・フレッシュ都南
所在地：盛岡市下飯岡 21-80

⑤ 産地直売所あぜみち
所在地：北上市流通センター 601-8

⑥ 母ちゃんハウスだあすこ沿岸店
所在地：上閉伊郡大槌町大槌 16-28

⑦ 産直 菜匂館
所在地：奥州市前沢駅東 2-8-7

⑧ 産直 来夢 (らいむ) くん
所在地：奥州市水沢 真城字杉ノ下 51

⑨ 江刺ふるさと市場
所在地：奥州市江刺愛宕字金谷 83-2

●対象のJA直売所のご利用分をJAカードでお支払いいただくと、JAカードご利用代金ご請求時に割引した額で請求いたします。
 ●一部、対象とならない商品・サービスがあります。
 ●予告なく割引率の変更・本特典を終了する場合があります。
 ●本特典は三菱UFJニコスが発行するNICOSブランドのJAカードが対象です。JCBブランドのJAカード、JAビジネスカード、JAコーポレートカードは本特典の対象となりません。

いつもあなたのそばに

JA新いわて / JAいわて中央 / JAいわて花巻 / JA岩手ふるさと / JA江刺 / JAおおふなと / JAいわて平泉 / JA岩手県信連

詳しくはお近くのJA窓口までお問い合わせください。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

